

普通に暮らせる日常の基盤を「築く」こと、それが建築職の使命です—

令和2年度採用

初任地～現所属（※令和3年度時点）
【本庁】土木部 建築総室 建築住宅課（福島市）



志望理由

人々の生活に不可欠な「住」

中学一年生の時に東日本大震災を経験したことが一番大きなきっかけですが、元々ものづくりが好きということもあり、建築に興味を持ちました。衣食住という言葉があるように、住は人々の生活に不可欠です。地震に強い建物作りに携わり、県民の生活を支えたいと思い県職員を志望しました。

仕事内容 やりがい

県営住宅に関する予算のマネジメント

本庁の建築住宅課で、県営住宅の長寿命化（既存の建物を改修して長期的に使用する）や居住性を向上させるリフォーム（給湯設備の設置等）などを円滑に行うためのマネジメントを担当しています。

一年目は仕事をこなすことで精一杯でしたが、現在は仕事の目的やどうしたらもっと良くなるかを考えたり、先輩の仕事を参考にしたりするなど、視野を広く持って仕事に励んでいます。具体的な仕事内容は、各建設事務所（出先）の要望内容を精査・確認し、県営住宅に関する県全体の予算の調整をすることです。実際に修繕が必要な県営住宅を訪れ、外壁や住戸内部の劣化状況を確認する現地調査を行うこともあります。

先輩方のように仕事を把握することは難しいですが、建設事務所と何度もやりとりを繰り返すことで、少しずつ自分自身でできることが増え、日々やりがいを感じています。



職場の 雰囲気

困ったら頼れる上司や先輩に相談

仕事で困ったときには、経験の豊富な上司や先輩方に相談したり、時にはたわいもないことで笑い合ったりしています。仕事にはメリハリを持って取り組める職場環境です。建築マニアの方も多いです。



最後に 一言

建築好きの職員がたくさん！

インターンシップやナビゲーター面談をぜひ活用してみてください！大学時代に実際に働く人の声を直接聞くことや仕事風景を直接見ることは職場を知る一番の近道です。また、自分がこれからその職場で働くイメージを持つことができます。建築好きの職員がたくさんいるので楽しいですよ！

普通に暮らせる日常の基盤を「築く」こと、それが建築職の使命ですー



平成25年度採用

初任地

【出先機関】相双建設事務所 建築住宅部 建築住宅課（南相馬市）
現所属（※令和3年度時点）

【本庁】土木部 建築総室 建築指導課（福島市）

志望理由

福島県をより身近に

震災を機に建築行政の立場で福島県に関わっていきたく思ったのがきっかけです。また、福島県は会津地方・中通り・浜通りの3方部で異なった文化や気候、風土が魅力であり、その土地で働くことによって、福島県をより身近に感じることができると思い志望しました。

仕事内容 やりがい

建築行政の立場から県民の安全・安心を守る

本庁の建築指導課で、主に建築指導行政に関する企画や総合調整を行っています。

その中で私は、県民の生命の安全性を確保するため、地震災害時に家屋の危険性を早期に判定し、二次災害を防ぐことを目的とした応急危険度判定士制度の整備・運用や違反建築物の是正、アスベスト対策などの業務を行っています。

建築行政の立場から県民の安全・安心を守るお手伝いができることにやりがいを感じています。



印象に残った仕事

復旧・復興の一端を担う

初任地の出先機関では、建築指導業務を担当しましたが、震災復旧の真ただ中であり、多くの建築確認申請の審査や建築基準法の相談に対応しました。

日々、街並みが再建されていく様子を現地で見ながら、自分が建築行政の立場でこの復旧・復興の一端を担えたことは大きな経験となりました。

資格取得

一級建築士の資格を取得

日々の業務では一級建築士と関わる機会が多く、関わる以上は、私も取らなきゃいけない！と思ったのが勉強を始めたきっかけです。

職場の上司や同僚の理解もあり、無事、一級建築士の資格を取得できました！



最後に一言

専門的な知識を生かせる達成感のある仕事

建築職員は、仕事の幅が広く、建築確認申請等を扱う建築行政や公共建築物をつくる営繕行政、施設管理など色々な仕事を経験することができます。建築の技術職員として、専門的な知識を生かして仕事ができることは大変やりがいがあり、達成感のある仕事です。一緒にこれからの福島県をつくっていきましょう！

普通に暮らせる日常の基盤を「築く」こと、それが建築職の使命です—



令和元年度採用

初任地～現所属（※令和3年度時点）

【出先機関】 県南建設事務所 建築住宅部 建築住宅課（白河市）

志望理由

「建築」の分野で福島県の力になりたい

県外の大学に通っている際に福島＝震災・復興といったイメージが強く残っていると感じ、大学で学んだ「建築」という分野で県の力になりたいと考え、県職員を志望しました。また、県の方が市町村よりも広域的に多方面から関わることができる点に魅力を感じました。

仕事内容 やりがい

「きれいになった」「使いやすくなった」の声

出先事務所の営繕係として、県有施設の改修工事等の設計・工事監理業務を担当しています。

担当業務の一例として、県立高校の改修工事では、学校を使用しながら工事を行うため、学校生活への工事の影響が最小限となるよう何度も打合せを行いながら、工事を進めていきます。

設計図を作成している間はあまりイメージが湧きませんが、工事が進み、徐々に形になっていく現場や工事が終わった様子を見ると達成感を感じます。また、学生や先生に「きれいになった」や「使いやすくなった」といった感想をいただけたことがとても印象に残っています。

※『営繕』とは、建物を新築・増改築すること(造営)と、老朽化した建物を直すこと(修繕)をまとめて指す言葉のこと。



▲ 改修前 ▼ 改修後



職場の 雰囲気

目標に向かって一緒に考える

業務量は決して少なくはありませんが、施設をより良いものにしようという大きな目標があり、わからないことがあってもすぐに相談しやすく、一緒に考えてくれる雰囲気があるため、安心して仕事に取り組むことができます。



最後に 一言

一人一人の仕事が県民の生活に直結していく

建築物は生活に直結する重要なものです。また、建築職員の一人一人の仕事が県民の方々の生活に直結しています。皆さんの思いがこもった仕事で、より安全・安心な建築物を作っていきましょう。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

普通に暮らせる日常の基盤を「築く」こと、それが建築職の使命です—



令和2年度採用

初任地～現所属（※令和3年度時点）

【出先機関】相双建設事務所 建築住宅部 建築住宅課（南相馬市）

志望理由

子どもたちの喜ぶ姿がきっかけ

高校（情報技術科）を卒業後、地元の建設会社に就職し、中学校校舎の増築工事に携わる機会がありました。苦勞することも多々ありましたが、その増築校舎が完成し、子どもたちが喜ぶ姿を見て、福島の安全・安心な暮らしに貢献できるような仕事により深く携わりたいと思い、県職員を志望しました。

仕事内容 やりがい

地域の事業者や住民との関わり

出先事務所の指導審査係として、建築基準法等の法令について指導する建築行政や県有建築物の営繕業務を行っています。その中で私は、建築物が法律に適合して設計されているかを確認する確認申請の審査や建築物が完成した際に受検する完了検査等の業務を担当しています。

建築行政職員として復興・再生に向け推進する様々な事業に携わることでき、責任とやりがいを感じています。また、建築物に係る相談で地域の事業者の方々や地域住民の方々と直接関わることが多いため、福島の安全・安心な暮らしにつながると思うと、とてもやりがいを感じます。



県職員になるまで

民間企業での建築との出会い

小さい頃からものづくりが好きで、生活の中で身近な家などの建築物が完成するまでの過程に興味を持ったのがきっかけとなり、現在建築職として働いています。

学生時にはコンピュータのハード・ソフトウェア関係について学び、初めて建築に携わったのは地元の建設会社に就職してからでした。建設会社に入社した当時は建築について何も知らず、苦勞することも多くありましたが、工事現場で様々な技術やノウハウに触れ、知識を吸収することができ、それは現在の業務にも生かすことができています。



最後に一言

福島の復興・再生、県民の安全・安心につながる仕事を

入庁当初はわからないことばかりで悩むことも多くありましたが、上司や先輩職員方に助けていただきながら、楽しく働いています。日々の業務は福島の復興・再生や県民の安全・安心につながる業務のため、とてもやりがいを感じています。

県職員の試験勉強は辛く、不安になることも多々あると思いますが、自分が決めた目標に向けて最後までベストを尽くして頑張ってください。みなさんと一緒に働けることを楽しみにしています。

普通に暮らせる日常の基盤を「彩る」こと、それが電気職の使命ですー

平成25年度採用

初任地

【出先機関】 鮫川水系ダム管理事務所（いわき市）
現所属（※令和3年度時点）

【本庁】 総務部 施設管理課（福島市）



志望理由

生まれ育った故郷で、復旧・復興に携わりたい

福島県いわき市で生まれ育ち、高専に通っている時に東日本大震災を経験しました。自分の生まれ育った故郷で、学校で学んできた電気の知識を生かし、ものづくりを通して復旧・復興に携わる仕事がしたいと思い志望しました。

仕事内容 やりがい

専門的な技術とスキルで県庁舎を支える

県庁舎全体の電気や空調、給排水、エレベーターなど各種設備の維持管理業務を担当しています。主に、庁舎内の利用者が安全・安心に利用できるよう、メンテナンス業者と協力しながら、専門的な技術とスキルで県庁舎を支える仕事です。

福島県の電気職は、電気設備の業務はもちろんのこと、機械設備の業務も経験することができるので、両方の知識を習得しながらスキルアップできるのが魅力的です。

急な設備のトラブルや、利用者からの難しい要望等で、仕事が思い通りに進まないこともあります。その中で、設備を改修して、利用者から感謝の言葉をいただいたときはやりがいを感じます。



産休 育休

ワークライフバランスを実現

令和2年4月～令和3年6月まで、産休・育休を取得しました。職場復帰直後は、私に、家庭と仕事の両立はできるのだろうかとても不安でした。

実際は、子どもの保育園への送迎により業務時間が限られることや、急な発熱で仕事を休まなければならない場合もありますが、上司や職場の理解もあり、ワークライフバランスを実現できる素敵な職場です。



最後に 一言

様々なことに挑戦できる職種

技術職は、女性がまだまだ少ないのが現実ですが、少しでも、同僚・後輩が増えることを願っています。職業を選択する上で、「どんな仕事をしたいのか、選んだ仕事は自分に合っているのだろうか」などいろいろ悩むこともあると思います。福島県の技術職員は、様々なことに挑戦することができ、また、困ったときには、助けてくれる先輩職員がいます。

普通に暮らせる日常の基盤を「紡ぐ」こと、それが機械職の使命です—

平成29年度採用

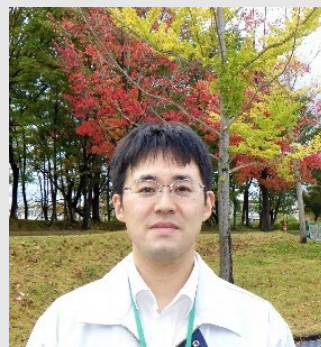
初任地

【本庁】土木部 建築総室 営繕課（福島市）

現所属（※令和3年度時点）

【派遣先機関】公立大学法人会津大学(※) 事務局 総務予算課

※県総務部 私学法人課から派遣



志望理由

地元愛に気づいて

大学生の頃、友人に「地元愛が強い」と言われ、初めて福島が好きだということに気づきました。他人に言われて意識し始めるなんて、まるで初恋のようですね。そんなこともあり、就職活動の際には、「大好きな福島に貢献するには自治体職員になれば良いんだ!」という安直な考えと機械系の学生として再エネの研究をしており、福島県が再エネ100%を目指していることから福島県職員を目指しました。

仕事内容 やりがい

会津大学の日常～施設管理～

会津大学で施設管理の建築設備（電気・機械）を担当しています。建築設備は建築物に付随する照明やコンセントなどの電気設備と水道やエアコンなどの機械設備の総称で、建築物の快適性を向上させるために欠かせない設備です。

会津大学は平成5年に開学した比較的新しい施設ですが、近年は老朽化が進み、毎日のように起こるトラブル（真冬に水道水を頭から浴びたり、外国籍の教員と言葉が通じなかったり、悪臭を放つゴミが捨てられていたり…）と格闘する様はドタバタホームコメディのようです。



▲ マンホール点検
木の根が詰まることも…

担当している本人としては真剣に仕事に取り組んでおり、学生や教員が安心して研究できる環境には何が必要かを考えながら仕事をしています。

会津大学は組織も施設も規模が比較的小さく、一つの担当で改修工事と維持管理の両方を担当するため、課題に気づきやすく、やりがいも感じやすい職場だと思います。

普段はメンテ業者さんや工事業者さんと協力して、改修計画を立てたり修繕を行ったりしますが、技術的な視点に加え予算管理なども求められる仕事です。

▼ 講堂 AV 機器操作
工事で最新機器に更新



職場の 雰囲気

仕事と人、現場、資格

入庁当初、建築設備の知識は皆無でしたが、同じような先輩職員が多く、親切に教えてもらえます。また、現場は教材であふれており、現場から学ぶことも多く、最初は不安ばかりでしたが、仕事をしながら建築設備に関する資格（建築設備士、第3種電気主任技術者、二級建築士）を取得することができました。

最後に 一言

モノづくりの楽しさと建築の奥深さに触れて

就職活動をしているときは建築関係の仕事をするようになるとは思っていませんでした。初めは不安でしたが、モノづくりの楽しさと人々の生活環境を作り出すという建築の奥深さ（と難しさ）に触れ、今では少しずつですが、面白さも感じるようになってきました。

それまでのバックグラウンドとは違う職種に就くことは自分の価値観を広げることに繋がります。また、建築という分野に別な分野からの新鮮な視点も必要だと思います。

普通に暮らせる日常の基盤を「彩る」こと、それが電気職の使命ですー

令和4年度採用

初任地～現所属（※令和4年度時点）

【本庁】土木部 建築総室 営繕課（福島市）



志望理由

工業高校で学んだ知識を活かし、県民の生活を豊かにしたい

私は就活時に民間か公務員か迷っていましたが、高校の先生に相談してみたところ、公務員を強く推されました。私も公務員に興味があり、工業高校で学んだ電気の知識を活かし福島県の施設整備を通じて県民の方々の生活を豊かにしたいと思い県職員を志願しました。

仕事内容 やりがい

電気だけではなく幅広い仕事に関われる

電気設備・給排水衛生設備の改修や、工業高校の新築工事を設計しています。

入庁前は電気設備管理を行うのかなと思っていましたが、実際に仕事を任せられると電気だけではなく、トイレ改修の仕事など幅広い仕事をやっています。

私はまだまだ専門の知識がないので設計事務所との打合せのときに話についていけないことがあります。分からないことがあればまず自分で調べて、それでもわからないときは先輩や上司の方々に質問をして少しずつですが建築設備の内容がわかるよう努めています。

知らないことを自主的に調べ、分からなければ質問して知識を吸収することにやりがいを感じます。



職場の 雰囲気

分からないことがあれば気軽に質問

CADで建築図面を描くのは難しく、分からないことが多々ありました。

分からないことがあったら気軽に先輩や上司に質問でき、一緒に解決してくれる良い職場環境だと思います。また、高校で学んだことを活かせるので楽しいと感じています。



最後に 一言

インターンシップで職場の雰囲気を確かめて

インターンシップを活用して実際に職場に来て職員の人たちと話し、雰囲気がどんな感じか確かめるのが良いと思います。私は入庁してからインターンシップがあることに気付いたので活用できることは活用しておくべきだと思います。

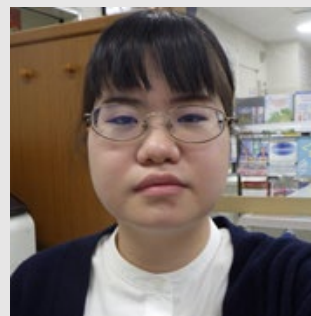
皆さんと一緒に働ける日が楽しみです。

普通に暮らせる日常の基盤を「彩る」こと、それが電気職の使命です—

令和4年度採用

初任地～現所属（※令和4年度時点）

【出先機関】福島空港事務所（石川郡玉川村）



志望理由

再生可能エネルギー先駆けの地で、電気の大切さを感じて

福島県が再生可能エネルギー先駆けの地を目指し、そうした技術の導入、普及に力を入れていることを学生時代に知り、関連した仕事に携わりたいと考え県職員を志しました。また、東日本大震災を経験し、自分の専攻した電気の大切さを改めて感じたことも志望した動機となっています。

仕事内容 やりがい

空港施設の運営や工事監理

福島空港の現地事務所で、運用に必要な備品、消耗品類の調達や工事の監督等に従事しています。

備品類の購入数量や仕様を確認し、記録を取り、報告までの一連の作業を担当しています。予算の制約の中で、購入先の会社との調整が大変な時もありますが、調達した物品が無事に空港施設に利用されているのを確認できた時は、ちょっとした達成感を感じます。本庁の空港施設室への報告の際に、報告内容の誤りや、提出期限に遅れてしまうなどの失敗もありましたが、間違いを丁寧に教えていただき、親切に指導していただいています。

工事関係の業務については、設計書の作成の仕方が分からず、先輩方につきっきりでサポートしていただき、ようやく完成した時は本当に安心しました。工事が始まり、監督員として、連日、現場に出なければならない時などは、普段体を動かしていないこともあり、体力不足をつくづく感じています。これからは、スポーツ等をして体を鍛えたいと思っています。



職場の 雰囲気

チームワークの良い明るい職場

職場の雰囲気はとても明るく、皆さんに親切にいただいています。仕事も丁寧にサポートしていただいております、安心して業務を進めることができます。雑談等をしているときも楽しく、チームワークの良い職場だと感じています。

最後に 一言

生活基盤整備に携わる重要な仕事

電気職は採用人数が少ないので、その年に採用試験があるかどうかも含め、早めに情報をキャッチすることが大事だと思います。

電気職を始め技術職は、福島県の生活基盤整備に携わる重要な仕事であり、やりがいがあると感じています。一方で、技術職は人手が足りないとも聞いています。

充実したよい経験ができる職場だと思うので、是非、チャレンジしてください。



普通に暮らせる日常の基盤を「彩る」こと、それが電気職の使命です—

令和4年度採用

初任地～現所属（※令和4年度時点）

【出先機関】 鮫川水系ダム管理事務所（いわき市）



志望理由

震災を経験、その被害の大きさを痛感して

小学1年生の頃に東日本大震災を経験しましたが、当時は会津にいたということもあり規模の大きさの実感が湧きませんでした。

成長して色々なことに触れ、次第に事の重大さ、被害の大きさというものを痛感しました。そして、未だ改善していない問題、高校で学んだ電気という分野から県のために尽くしたいと思い、県職員を志しました。

仕事内容 やりがい

現場を見て、どう改善していけばより良くなるのかを考える

ダム管理事務所ということで、他の機関にはない当直業務、ダムの維持管理（水位調整、施設設備の整備）を主にしています。

今は、仕事をしているというより先ずはダムについて学ぶということ視野において励んでいます。仕事の知識はもちろん、地域の名前、河川、道路の名前など覚えることが沢山あるので日々学ぶ毎日です。

やりがいとしては、修繕などを担当した際、設計の段階では分からない、全く新しくなったものをいち早く見ることができることです。様々な劣化状況を現場で見て、どう改善していくとより良くなるのか、そんなことを考えて業務に取り組みめるのも、1つのやりがいに繋がると思います。



職場の 雰囲気

分からないことは気軽に質問

入所直後は業務の知識はもちろん設備の知識もさっぱりでした。そんな中、上司や先輩の方々に恵まれ、分からないことがあっても気軽に質問できる、そんな環境で多少なりとも使える知識を身に付けることができました。

最後に 一言

これからの福島県を共に作っていきましょう

県職員になるため毎月のように受ける模試は辛いかも知れませんが、自分の実力を底上げして試験に挑めるよう頑張ってください。皆さんと一緒に働けること楽しみにしています。これからの福島県を共に作っていきましょう。